



当院の地域包括ケア病棟で受け入れ可能な方について (地域からの受け入れ)

1. 痰の吸引、点滴などの医療的処置が必要なため、介護施設でのショートステイの利用が困難な方（メディカルレスパイト）
2. 短期集中リハビリテーションが必要な方（入院期間は2～3週間）
3. 摂食嚥下機能評価を希望される方
4. 痰の吸引方法など、ご家族への指導が必要な方
5. CKD（慢性腎臓病）教育入院
6. 糖尿病患者さん食事体験入院
7. 関節リウマチ患者さん教育入院

平成29年度第3回認知症対応力向上研修会のお知らせ

～認知症疾患医療センター4周年記念講演会～

日時：平成30年3月29日（木）午後5時30分～午後6時30分

内容：林竜也先生（林こころのクリニック 院長）による講演、質疑応答
「高齢者のうつと認知症について」

地域包括ケア病棟“事例紹介・意見交換会”のお知らせ

日時：平成30年4月21日（土）午後2時00分～午後4時30分

内容：①受け入れした事例の紹介、②意見交換、③医療保険・介護保険の改正について

※ 別便でご案内します

地域包括ケア病棟に関する問い合わせは、地域医療連携室まで（担当：中嶋・中野）

TEL：0774-72-0235

地域包括ケア病棟で受け入れた事例（第20回）

～皆さんは、人生の終焉について考えたことはありますか？～

昨今、地域包括ケアの推進により、在宅医療への移行が益々推進されています。今回ご紹介する患者さんはまさに、ご本人・ご家族の希望に沿って病院と在宅チームが連携し支えた事例です。

＊



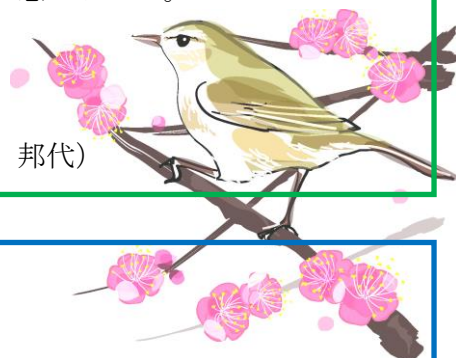
患者さんは肝臓機能障害で入院されましたが、検査の結果、癌が見つかりました。癌が発見された時点では、積極的な治療の対象ではなく、主治医から「今後は治療から緩和医療への切り替えとなる」と告げられました。そして、人生の終焉をどこで迎えたいかをご家族と相談され、ご自宅での終焉を希望されました。

治療方針が決まってからは、退院してからも困らないようにと、退院支援部門では、かかりつけ医や訪問看護ステーションの看護師、ケアマネジャーと連携し、今後予想される疼痛や発熱などの対応について情報共有を行いました（ご退院前にはカンファレンスを実施しました）。また、病棟看護師は、おむつの交換やバルーン処理の方法などの日常のケアに関する指導を行いました。

退院に向けて準備を進めている中、患者さんご本人に、「心配な事はないですか」と尋ねると「近くに先生がいるから」と答えられ、かかりつけ医の大切さを改めて感じました。

ご退院されてから約2週間でしたが、ご家族に看取られ、穏やかな人生の終焉だったそうです。

（退院支援看護師 豊島 邦代）



地域医療連携室より

～地元愛を忘れずに～

先日、『笠置ROCK』という映画のDVDを観ました。笠置町が舞台となった映画で、ROCKフェス（音楽）と思って東京からやってきた青年が、笠置町に着いたら、実はボルダリング大会（岩のROCK）だったというオチがあるのですが、ボルダリングに一生懸命取り組む青年と、地元の方を通じて芽生えた笠置町への愛（地元愛）が描かれています。実際の住民の方々も沢山、出演されています。ドローンで撮影した笠置町の風景や、名産の「ゆるぎ飴」を東京からやってきた青年に渡すというワンシーンなどもあり、自然な形で笠置町のPRが入っています（ゆるぎ飴、美味しいです）。

笠置町を含む東部3町村は、少子高齢や雇用など、深刻な問題を抱えているのは事実ですが、この映画を観て、住民の方々の団結力や地域力などが垣間見ることができ、また、「住民で協力してやっていくんだ」という意地に近いものも感じました。このような地域を下支えするのが当院の大きな役割ですが、この映画を観て、「地元愛」を忘れないでおこうと思いました。

まだDVDを観られていない方は、ご覧になってはいかがでしょうか。ゆるぎ飴を食べながら。

（地域医療連携室 係長 南出 弦）